

## 『計量国語学』アーカイブ

<b>ID</b>	<b>KK300705</b>
<b>種別</b>	学会参加報告
<b>タイトル</b>	QUALICO2016 (国際計量言語学会大会) —2016年8月24日～8月28日, 於トリア(ドイツ)・トリア大学及 ERA Conference Centre—
<b>Title</b>	QUALICO2016 International Quantitative Linguistics Conference at Trier University and the ERA Conference Centre in Trier, Germany
<b>著者</b>	真田 治子
<b>Author</b>	SANADA Haruko
<b>掲載号</b>	30巻7号
<b>発行日</b>	2016年12月20日
<b>開始ページ</b>	450
<b>終了ページ</b>	453
<b>著作権者</b>	計量国語学会

## 学会参加報告

## QUALICO2016 (国際計量言語学会大会)

—2016 年 8 月 24 日～8 月 28 日,  
於トリア (ドイツ)・トリア大学及 ERA Conference Centre—

真田 治子 (立正大学)

## 1. 大会概要

国際計量言語学会大会 QUALICO2016 は、ドイツ最古の都市といわれるトリアで行われた。冒頭の会長ツッツィー (Arjunna Tuzzi) 氏 (イタリア・パドヴァ大学) の挨拶でも言及されていたが、今回の大会は、学会設立準備のための最初の大会が 1991 年にトリアで行われた<sup>1</sup>ことを記念し、25 年後の 2016 年にトリアに戻るという意味を込めて、開催地と開催年が決められた。開会のセッションではこれまでの大会開催の歴史の紹介のほか、学会論文誌 *Journal of Quantitative Linguistics* の編集長であり、この分野をヨーロッパでアルトマン (Gabriel Altmann) 氏 (ドイツ・ボッフム大学) とともに牽引してきたケラー (Reinhard Köhler) 氏 (ドイツ・トリア大学) の定年退職を記念して、ケラー氏についても紹介がなされた。

今回は口頭発表のみでポスターセッションはなかったが、大会規模は、特に前回の大会 (於オロモウツ大学・チェコ) から大きくなってきており<sup>2</sup>、前回同様 2 会場並行方式になった。口頭発表数は 44 件、参加者数は約 60 名で、EU 各国の他、ロシア・中国・日本・カナダ・米国など 14 か国から参加があった。参加者の動向で特に目立つのは、ロシアや東欧の若い世代の研究者の参加が多かったこと、アジアでは中国からの参加が多かったことである。日本と中国からの発表は計 13 件と全体の約 3 割を占めた。またロシア・東欧・中国・日本からの参加者には、留学経験者や欧米の学会での発表経験者も多く、この点も新しい傾向といえる。なお日本からは東洋大学の小林雄一郎氏、同志社大学の孫昊氏、計量国語学会理事の山崎誠氏 (国立国語研究所) と真田、計 4 名が参加した。

トリアはモーゼル川沿いにあり、ルクセンブルグにも近い。ドイツで最も古い都市として知られ、約 2000 年前に建造されたローマ時代の門や儀式用の浴場、円形劇場が残っている。またトリアの大聖堂は 4 人の選帝侯の一人である大司教が出たことでも知られている。これらのローマ遺跡群、大聖堂、聖母教会は世界遺産に指定されている。カール・マルクスの生家がある都市でもある。トリア大学は 1473 年に大司教の先導によって設立されたが 1798 年に一旦廃止され、1970 年に再度設立された。学生数約 14,000 人、教職員

<sup>1</sup> 1991 年の大会の発表は以下の論文集にまとめられている。Köhler, Reinhard; Rieger, Burghard B. (eds.) *Contributions to Quantitative Linguistics*. Dordrecht, Boston, London: Kluwer Academic Publishers.

<sup>2</sup> ベオグラード大会(2012 年)は参加者数約 40 名、発表件数 30 件。オロモウツ大会 (2014 年) は参加者数約 60 名、発表件数 65 件 (ポスター発表を含む)。

数約 1,200 人, 6 学部の総合大学である<sup>3</sup>. 第 2 学部のコンピューター言語学・デジタルヒューマニティーズ学科の教職員 4 名が大会の開催担当であった.

## 2. 研究発表について

研究発表は, おおよそのテーマごとにセッションが分けられていた. テキストの計量的特徴, 長さや頻度の分布, N-gram, 結合価理論との関係, モデル化・方法論・アルゴリズムなどに関するもの, 分析手法の比較, 談話の文体的特徴, 著者同定問題, 時系列データのロジステック回帰分析, 方言地理学への応用など, 扱う言語は異なるが計量言語学のテーマとしてはよく知られたものやその応用が多かった. データソースは電子化したテキストの他, コーパスやデータベースを検索・加工したものが圧倒的に多かった. Twitter や Facebook から (契約によって) 大規模に収集された言語データベースを利用した研究が複数あり, 目新しく感じられた. 発表者の専門は, 言語学, 社会学, 統計学, 情報学など様々で, いろいろな分野の, 計量言語学に関わる発表が聞けたという点でも貴重な機会だった.

なお今大会における, 日本語を対象とした研究発表題目は以下の通りである.

Kobayashi, Y., Amagasa, M., Suzuki, T. "Investigating the Chronological Variation of Lyrics of Popular Songs through Lexical Indices".

Sanada, H. "Quantitative Interrelations of Properties of the Complement and the Adjunct".

Sun, H., Jin, M. "Authorship Attribution of Yasunari Kawabata's Novels: Who Actually Wrote *Otome no minato* and *Hana nikki*".

Yamazaki, M. "Coherence and Quantitative Measures of Texts".

## 3. 国際計量言語学会 (International Quantitative Linguistics Association) 会員総会

2 日目の研究発表の後, 会員総会も行われた. 主な議題は, 今期の会計報告・活動報告, 役員の改選, 規約変更に関する審議などであった. 改選の結果, イタリア・パドヴァ大学のツツィー氏が会長に再選された. この他の役員は若干の入れ替わりがあったが, 真田とカナダのエンブルトン (Sheila Embleton) 氏は任期の定めのない International Representatives and Liaisons という役員, ケラー (Reinhard Köhler) 氏は学会論文誌 *Journal of Quantitative Linguistics* の編集長で, これらは特に変更はない.

*Journal of Quantitative Linguistics* は学会論文誌ではあるが, 同時に非会員からの投稿も広く受け付けている. インパクト・ファクターのある学術誌ということで, 投稿は多いとのことである.

学会活性化のための議論も時間をかけて行われ, 学会ホームページやフェイスブックの活用について案が出された. また次回の大会開催地についても話し合いが行われた.

<sup>3</sup> 数字はトリア大学ホームページによる. <https://www.uni-trier.de/index.php?id=16186> (2016 年 9 月 26 日最終閲覧)

#### 4. 次回の国際計量言語学会大会について

国際計量言語学会大会は 2012 年の大会から、以後 2 年ごとの開催を目指すことになった。次回の大会は、2018 年夏に、ポーランドのヴロツワフ大学で開催することが検討されている。ヴロツワフ (Wrocław) はポーランド西部の都市で、ドイツ・ドレスデンやチェコ・プラハのやや東に位置している。郊外に国際空港があり、日本からはフランクフルトやミュンヘン経由の空路で入ることができる。

国際計量言語学会は会員・非会員の区別なく大会での発表を受け付けている。申込み受付期間はおよそ 1 年前から半年前くらいの間で、学会ホームページ<sup>4</sup>や [Linguistlist.org](http://Linguistlist.org) など言語学関係のサイトで告知される。扱う言語が異なってもデータを数値化して比較したり、方法論を議論したりできるのが計量言語学のメリットであろう。発表は英語で行われるが、英語を母語とする参加者は少ないので大会では互いにわかりやすく話そうとする雰囲気がある。分野も言語学、自然言語処理、翻訳学、論理学など多様な背景の研究者を幅広く受け入れている。

(2016 年 9 月 27 日受付)

---

<sup>4</sup> <http://www.iqla.org/>

*Conference Report*

QUALICO2016  
International Quantitative Linguistics Conference  
at Trier University and the ERA Conference Centre in Trier, Germany

SANADA Haruko (Rissho University)

**Abstract:**

International Quantitative Linguistics Conference 2016 (QUALICO2016) was held at Trier University in Trier, Germany from August 24th to 28th. This is the 25th anniversary of the first Quantitative Linguistics conference held in 1991 at Trier University. There were 44 talks with ca. 60 participants coming from 14 different countries. A third of 44 talks were by Asian participants including four participants from Japan. There were varied topics, e.g. the text analysis, the length and the frequency, the discourse analysis, N-gram, the valency theory, the authorship attribution, and data from twitter or Facebook, etc. IQLA Council Business Meeting was also held and new board members were selected. The next conference will be scheduled in a summer 2018 at Wrocław University in Poland.